議　第　４９７　号
令和８年 10 月 27 日

民生病院常任委員会審査概要報告書

委員長　梅島　清香

Ⅰ　開催年月日　令和８年９月 16 日（水）
Ⅱ　会 議 時 間　午前 10 時 00 分～午前 10 時 49 分
Ⅲ　出席委員等　〔出 席 委 員〕◎梅島　清香　○高岡　宏和　山野井拓也
髙木　敬介　中川加津代　上田　武
本田　利麻　水口　清志
（◎…委員長　○…副委員長）
〔議　長〕　曽田　康司
〔副 議 長〕　中村　清志
〔説 明 員〕　別紙名簿のとおり（福島市民病院長、吉本文化国際課長が公務のため欠席）
〔委員外議員〕　水越　進一　塚本　政彦　新開　広恵
〔事務局職員〕　松本　武司　竹田　裕子　越田　裕喜
〔傍 聴 者〕　１名

Ⅳ　審査の概要
１　付託議案について
議案第 67 号　令和８年度高岡市一般会計補正予算（第３号）のうち本委員会所管分
議案第 69 号　令和８年度高岡市介護保険事業会計補正予算（第１号）
及び
議案第 79 号　財産の取得について（耳鼻咽喉科用医療資器材一式）

以上、予算議案２件及びその他議案１件の計３件については、審査の結果、全会一致で、いずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈　委員から、質疑等はなかった。　〉

２　報告事項について

〈　当局から、報告はなかった。　〉

３　閉会中の継続審査について
本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査する必要があるため、会議規

則第104条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

４　その他

◦ 次回の本委員会の開催について

令和８年10月19日（月）午後１時に開催することが報告された。

【高齢者の運転免許自主返納について】

○　高齢者の運転免許自主返納について、過去５年間の申請件数の推移は。

△　高齢者運転免許自主返納事業の過去５年間の推移は、令和３年度は737人、４年度は636人、５年度は601人、６年度は649人、７年度は686人と、600人から700人台で推移している。

○　市の自主返納事業に申請した方の数字と、実際に警察署へ返納された数字とは多少の乖離があると考えている。自主返納した方には、市の事業として、交通券などの交付をしていると思うが、その使用状況を把握しているのか。

△　本事業では、65歳から74歳の方には1万6,500円相当、75歳以上の方には1万1,000円相当の万葉線・加越能バス共通回数乗車券又はタクシー等利用券を交付している。万葉線・加越能バス共通回数乗車券は市で事前に買い取って申請者に渡しているため、使用状況は把握できていない。タクシー等利用券は、利用した後に市に請求がある。７年度分のタクシー等利用券の使用状況は、タクシー利用で364万4,000円分、自転車用ヘルメット等の購入で、３万円分が使用されている状況である。

○　使用状況について、どれくらいの割合で使用されているのか、市民に喜ばれているのか、役に立っているのかということをどのようなデータで把握しているのかが大事である。役に立っていないなら、廃止すればいい。市民に喜ばれている、役に立っているというリアクションがあるのなら、拡充する余地もあると考えるが、見解は。

△　交付した利用券は、単年度で使わなければならないものではないので、それぞれの年度に交付した券の利用状況から推測すると大体５割から６割が使用されている。年数を経るに従って、その利用率が増えていくような仕組みである。利用券の満足度は、意見を伺う機会がないため、具体的な状況は把握していない。ただ、タクシー利用をしにくい環境にある方もいるため、タクシー等利用券は、タクシー利用ではなく、例えば、シニアカーの購入やレンタル、あるいは自転車用のヘルメットの購入にも使用できるようにしている。そういった他の利用方法について、利便性の向上ができないか、他市町村の事例も参考にしながら検討したい。

○　使用状況が細かく分からないのは課題だが、公共交通機関と連携しながら、市民の方々の状況がつかめるような策をとっていただきたい。タクシー等利用券のみで購入できるわけではないと思うが、一部に充てる形でシニアカー等を購入できるのは凄い。ヘルメット、杖など、様々な分野に及んでも良い。即日使い切る可能性もあるが、そうすればもっと役に立つのではないか。使用しないということは、使いあぐねているともとれる。是非とも使用しやすいように考えていただきたい。（要望）

○　４点伺いたい。１点目について、タクシー等利用券は、実績に応じて支払いを行い、万葉線・加越能バス共通回数乗車券は買い取りしているとのことだったが、この対応の

違いはどういう尺度で判断しているのか。２点目について、なぜ利用者の満足度を調査しないのか。３点目について、今後、事例を参考にしていくと言われたが、どのような事例を参考とするのか。４点目について、先日の港湾・交通・観光対策特別委員会で、交通施策の説明を受けた際、市民にやさしい公共交通のあり方ということで、自主返納されている方々のデータを見たが、残念ながら、福祉分野と一体的に検討し、連動して対策を打っている印象が薄かった。実際のところ、本委員会に所属する部局として、どのような連携を図っているのか。

△　総合交通課との連携は、まだ弱いところがある。この事業の申請者は、万葉線・加越能バス共通回数乗車券又はタクシー等利用券のうち、タクシー等利用券を選択する方が約９割近くいる。公共交通の共通回数乗車券を利用してもらうことは、公共交通の利用促進にもつながる効果もある。今後、様々な事業の内容を見直すにあたり、総合交通課とも協議しながら、相乗効果が出るように、検討していきたい。また、この事業の申請時には、総合交通課で実施している加越能バスのゴールドパス等を案内するよう努めていきたい。

△　１点目の対応の違いについては、万葉線、加越能バスの利用に係る共通回数乗車券を交付しているため、事前に買い取る方法で実施している。自主返納された方だけの専用の乗車券で限定して請求する方式で実施することは、費用対効果を考慮すると難しい点がある。２点目の満足度については、この事業を申請する際に、申請情報等を利用してアンケート調査を実施すると記載していないことから調査は行っていない。今後、満足度を測る方法について検討していきたい。３点目の参考にする事例等については、他市町村でも公共交通の利用等を中心に実施しているが、シニアカー、ヘルメット等の購入に使用できる事例もあることから、そのような事例も参考にしながら、拡充策を検討していきたい。

○　９割がタクシー等利用券を希望するとのことで、万葉線・加越能バス共通回数乗車券を選ぶのは１割の方となるが、その１割の方々のために、いくらのチケットを加越能バスから事前に買い取っているのか。財政運営上、どのような見直しが必要なのかを考えるための参考にしていただきたい。他市の事例を見ながら、細かく様々な対策を考えることも大切だが、実際に使用している方々が何を望み、どれくらい満足しているかという実態把握を最優先していくべきではないか。実態に合ったきめ細かい対策をお願いしたい。（要望）

△　満足度に関する調査について、どのような方法がよいか検討したいと答弁したが、その調査の際には、どのような手法で、本事業を拡充できるかをあわせて聞いていきたい。

△　買い取りした共通回数乗車券の交付状況について、７年度の交付した額面の金額で、65 歳から 74 歳までの方には 1 万 6,500 円相当を 28 人に交付しており、計 46 万 2,000 円分となっている。75 歳以上の方には 1 万 1,000 円相当を 60 人に交付しており、計 66 万円分であり、合計で 112 万 2,000 円分を買い取りしている。

○　万葉線･加越能バス共通回数乗車券を事前に買い取って、準備しているわけではなく、要望があったものに対して、買い取っているというシステムなのか。

△　万葉線・加越能バス共通回数乗車券については、申請者に交付して減少した段階で、前年度の交付実績を踏まえ、約２年分の在庫を目安に購入している。現時点の事前買取

した在庫額は、235 万 5,000 円分である。
○　福祉保健部における連携の進捗は。
△　総合交通課で実施している高齢者向け乗り放題パス（ゴールドパス）等を通じて、高齢者の方が気軽に公共交通で外出し、健康維持に繋がっていると考えており、健康づくりや介護予防という部分で連携している。介護保険制度では、福祉車両タクシーの助成や地域のボランティア等が主体となって行う移動支援等も実施しており、交通弱者の方が多い福祉部門としては、公共交通は大事であるため、今後も関係部局と連携していきたい。
○　第 10 期高岡市高齢者保健福祉計画･高岡市介護保険事業計画に少しでも反映できるよう、密なコミュニケーションを取っていただきたい。（要望）
○　自主返納した方の希望が偏っているが、もともと免許を持ってない方で、公共交通を利用したい方もいると考えられる。港湾・交通・観光対策特別委員会では、免許返納者の数を確認したが、所管外という話になったと聞いた。部局を越えて総合交通課と連携しながら取り組んでいただきたい。もし、アンケート調査をするのであれば、市内には空白地でタクシーしかないところもある。そういったニーズも踏まえて連携することで公共交通の利用にもつながると考えているので､その視点も入れていただきたい｡(要望)

【大雨に対する消防本部としての今後の考え方について】
○　近年、大雨が大変問題となっており、令和８年８月末だけではなく、その１週間ほど前にも大雨があった。今定例会でも多くの議員が、大雨に関する質問をしており、それだけ問題意識を持っているものと捉えている｡この件に関しては､消防本部だけでなく、危機管理課、土木維持課、上下水道局も含めた、全庁的な課題であると考えているが、消防本部として、大雨に対する今後の考え方を聞きたい。
△　近年、全国的に大雨が頻発しており、本市においても、５年７月と７年８月、そして８年８月と大雨による被害が発生している。このような大雨による災害に備えて、消防本部や消防署においては、救命ボートや水難救助用資機材の整備を図ってきた。また、消防団においても、救命ボートや救命胴衣の配備を図ってきた。今後も計画的に資機材の充実強化に努めたいと考えている。また、災害発生時には、タイムラインに沿った適時適切な対応が必要であり、特に災害発生からの効果的な初動対応が、その後の被害軽減のためには重要であると考えていることから、今後も様々な災害現場を想定した、訓練を積み重ねていきたい。加えて、本市の関係部局を初め、国、県の防災関係機関や他の消防本部との連携強化を図りながら､さらなる災害対応能力の向上に努めていきたい。
○　今回の８月末の大雨の際には、消防本部にどれくらいの市民から連絡があったのか。
△　雨が酷くなり調査事案と出動事案等が出始めた８月 26 日 21 時から８月 29 日８時 30 分までに、市内から 101 件の 119 番通報が入っている。
○　伏木など北部地域が主なところか。
△　水害、水に関するものについては伏木地区、市中心部からも用水越水の通報が入っている。
○　これからも全庁的に連携して､大雨に対する対策等に力を入れていただきたい｡(要望)
○　消防署として通報を受けた後は、危機管理課等と連携していると考えられるが、どの

ような対応となっているのか。
△　101 件の通報があった中で、救助の事案が 1 件あった。これに関しては救助出動により、要救助者を救出している。残りについては、水位や水が上がってきたという通報で、その件に関しては消防隊が現地へ向かって、現状を調査した。
○　今回の大雨を受けて、氷見市などでは、建設業の関連資機材、トラック、工事車両が水没して復旧にも行けない、困難な状況に陥っている業者がいるという実態がある。そこで、本市の消防車を水害から守るための対策状況は。
△　水が上がってくる、津波等の状況をいち早く察知した場合、高いところへ消防車を避難させることをマニュアルで定めている。

〈　当局から、次の報告・説明があった。　〉

〔福祉保健部〕
◦ インフルエンザ予防接種の前倒しについて

〈　委員から、質疑等はなかった。　〉

〈　以上で委員会を閉じた。〉

民生病院常任委員会　当局説明員（２７名）

生活環境文化部長	村 上　　彰	市民病院長	福 島　　亘
生活環境文化部次長 市民生活課長	中 保　　哲 憲	市民病院事務局長	長 谷 川　　聡
環境政策課長	割 田　　一 郎	総務課長	塩 谷　　慎 久
脱炭素推進課長	中 川　　正 人	医事課長	山 本　　明 宏
地域課長	長 井　　剛 志		
文化国際課長	吉 本　　恭 子	消防長	有 澤　　智 文
男女平等・共同参画課長	徳 市　　直 之	消防本部次長	布 橋　　隆 男
市民課長	窪 田　真 寿 美	消防本部参事 通信指令課長	沙 魚 川　文 春
		総務課長	田 中　　秀 和
福祉保健部長	新 田　　裕 子	予防課長	蔭 浦　　幸 雄
福祉保健部次長 こども家庭センター長	森 川　　朋 子	警防課長	佐 野　　吉 英
福祉保健部参事	関 原　　総 臣		
社会福祉課長	今 方　　順 哉		
社会福祉課 福祉連携推進室長	大 野　美 喜 子		
子ども・子育て課長 保育・幼稚園室長	竹 内　　文 雄		
長寿福祉課長	塩 谷　　宜 子		
保険年金課長	水 野　　篤 美		
健康増進課長	島　田　　輝		